

前期編

森と光が織りなすうるおいのまち伯耆町
家庭教育ハンドブック

～自分からすすんで学ぶ子どもを育てる～



伯耆町教育委員会

監修／鳥取大学名誉教授
矢部 敏昭

監修に当たって

この度、伯耆町教育委員会により「家庭教育ハンドブック」の改訂版が刊行され、令和8年度から活用されることをうれしく思います。輝く未来を生き抜く子ども達のために作られたこのハンドブックが、伯耆町のお子様を持っているご家族の家庭教育に生かされ、伯耆町の未来を担う子ども達の健やかな成長の一助になることを心から願うものであります。

子ども達の「自立」に向けて、この時期に大切なのは自分の好きなことややってみたいことに対して、子ども達のことを尊重してその好きなことややってみたいことを促してあげることだと思われまゝす。それは、好きなことややってみたいことに取り組む過程には、“夢中”になる行為と“集中”する行為が生まれるからです。なぜならば、それらの行為は子ども達のもので行動に移しているからです。そして、その意思が次第に主体的に学ぶ「意欲」や「やる気」につながるのです。

伯耆町の森と光が織りなす大自然の中で、時間を忘れて遊ぶことや友達と楽しむこと、また家庭の中で静かに絵を描くことや学校で習った文字を何度も丁寧に書くことは、自然や物、そして人や社会との関わりを持つことにつながります。

「自立」に向けた第一歩は、子ども達が信頼する大人に見守られながら、自分の意思を行動に移し続ける一つひとつの行為が子ども達の豊かな感受性と主体性を生むことにつながると思われてなりません。

鳥取大学名誉教授
矢部 敏昭

もくじ



・ 保護者のみなさまへ	3
・ 家庭教育のめざすところ	4
・ 小学校入学前	5
・ 小学校1年生	6
・ 小学校2年生	8
・ 小学校3年生	10
・ 小学校4年生	12
・ 伯耆町の学校教育	14

保護者のみなさまへ

家庭は、お子様が安心して成長できる「こころやすらぐ場所」です。お子様が心を開き、安心して自分を表現できる環境を提供することは、どんな教育よりも大切な土台となります。しかし、家庭だけではなく、学校や地域といった外部のサポートも同じくらい重要です。

「学校」「地域」「家庭」がしっかりと連携し、それぞれが役割を果たすことで、お子様の成長はさらに力強く、しなやかなものとなります。この三者が「スクラムを組んで」お子様を育てていくことが、健やかな成長を支える大きな力になります。

学校では学びの基盤を作り、地域では社会性を育み、家庭では心を支えます。それぞれの場での役割が、互いに補完し合い、協力し合うことで、お子様はより多面的に成長できるのです。このスクラムを組むという考え方は、単に物理的な支援だけでなく、心の支え合いを意味しています。家庭の中での温かさ、学校での知識、地域でのつながりが一体となり、お子様の成長にとって欠かせない要素となります。

子ども達の「自立」に向けて、家庭・学校・地域社会がスクラムを組んで、それぞれの役割をはたしていく必要があります。伯耆町の子ども達を、みんなで見守り、みんなで育てていきましょう。

この『家庭教育ハンドブック【前期編】』は、小学校入学前から小学校4年生のお子様をお持ちの、保護者や家族の方を対象につくりました。今後、子ども達の成長に応じて、【中期編】（小学校5年生～中学校1年生対象）、【後期編】（中学校2年生～中学校卒業後対象）を手にしていただきます。

教育には決して「マニュアル」はありません。みんなが手さぐりで子ども達と向き合っています。大切なのは、完璧を目指すことではなく、ひとりひとり異なる子ども達と一緒に楽しみながら共に成長していくことです。この冊子を折に触れて開いてみてください。そして保護者のみなさまのオリジナルの「家庭教育ハンドブック」をぜひ作ってみてください。この冊子が保護者のみなさまの子育ての助けになることを願っています。

お問い合わせ先

伯耆町教育委員会事務局

所在地 〒689-4292
鳥取県西伯郡伯耆町溝口647
電話番号 0859-62-0927
ホームページ <https://www.houki-town.jp/>



家庭教育のめざすところ

家庭で自分からすすんで学ぶ子どもを育てる

大人になるということは「自立する」ことです。それは、経済的なことだけではありません。自分で考えて行動し、自分のことに責任を持つという、心の自立も含まれます。人は、そのために学びながら成長していきます。ここで言う「学び」とは、学校の勉強だけではありません。たとえば、人と関わる中で「ありがとう」や「ごめんなさい」が言えるようになること、時間を守ること、自分の気持ちをことばで伝えることなど、日々の生活の中で身につけていく力も大切な学びです。

こうした力を育てるには、家庭での関わりがとても大きな役わりを果たします。朝の「おはよう」、できた時の「よくがんばったね」、困っている時の「どうしたの?」など、大人のちょっとした声かけやまなざしが、子どもにとっては大きな安心となり、自分からやってみようとする気持ちを育ててくれます。子ども達が「自分でやってみたい」「もっと知りたい」と感じるようになること——それが、自ら学ぶ姿勢のはじまりです。家庭は、そのはじまりを支える大切な場所です。

やがて子ども達は学校教育を卒業し、社会の中で生きていくことになります。社会人になると、自分からすすんで学ぶ姿勢がますます求められます。だからこそ、大人は、子ども達が自ら学べるように育てていく必要があります。言われたことをやるだけでなく、自分で考え、選び、ときには間違えながらも前に進んでいけるように、日々の生活の中で見守り、支えていくことが大切です。子ども達がどのくらい自立に向かって育っているのかを考えるときには、家庭での「学び」の様子をよく見てみましょう。「自分からやってみる」「考えて工夫する」「最後までやりとげる」——そんな姿が少しずつでも見えてきたら、それは自立への歩みが始まっている証です。

学ぶ意欲を高める

「意欲」、「やる気」、「モチベーション」、いろいろな言い方がありますが、自分からすすんで学ぶ子どもを育てるうえで、とても重要な要素です。学習意欲が高まるのは、主として次の3つのケースが考えられます



1 学ぶことで、自分が信頼する人と関わりがもてるのがうれしい。

2 学ぶことで、わかること、できるようになることが楽しい。

3 学ぶことで身についたことが、自分にとって役に立つと信じている。

この①～③の3つがからまって、学ぶ意欲が高まっているのですが、この【前期編】で特に注目していくのは、①の人との関わりです。

この時期の子ども達は、学校では友達と一緒に授業に参加できることに喜びを感じ、先生から褒めてもらうことでますますやる気を出します。人との関わりの中で学ぼうとするのです。家庭でも、家族が目をかけ、声をかけ、手をかけることが必要な時期です。家庭学習といっても、宿題と簡単な予習・復習で十分だと思います。できるかぎり、家族も関わってください。その関わりによる学びの土台づくりが、後の「自立」に向けて大きな役割を果たしていきます。

小学校入学前



子どもは大人の姿を見て育つ ～家庭こそが最初の学びの場～

乳幼児期の子どもにとって、家庭は保育所や幼稚園と同じく大切な「学びの場」です。学校教育が始まる前のこの時期に、心と体の土台が日々の生活の中で自然と育まれていきます。その基礎は特別な教材ではなく、親や身近な大人の姿から学ぶものです。

現代は情報があふれ、忙しい毎日を送る家庭も多く、子育ては簡単ではありません。だからこそ、「家庭でのふれあい」や「大人のふるまい」が子どもに与える影響を大切にしたいものです。

子どもは、規則正しい生活の中で健康や体力を育て、人との関わりを通して善悪や思いやり、気持ちを言葉にする力を身につけます。これらを育てるうえで最も大切なのは、大人が手本を示すことです。挨拶や思いやりを子どもに望むなら、まず大人が日常で実践する姿を見せることが必要です。子どもは言葉以上に大人の行動をよく見て学びます。

大人も完璧ではありませんが、失敗を認めて謝ったり、前向きに努力したりする姿もまた、子どもにとって大切な学びとなります。「子どもは、大人の姿を見て育つ」ということを意識し、日々の積み重ねの中で子ども達の「生きる力」の土台を育てていることを決して忘れてはいけません。

鳥取大学名誉教授 矢部敏昭教授がすすめる

— 教育スタンダード — 「学習の自立化」に向けた望ましい保護者のあり方

- ・ 学校での様子や友達関係について、親子で会話する。
- ・ 勉強のしかたや成績について、いつも相談にのる。
- ・ 礼儀作法、秩序、道徳観について、いつも親子で話し合う。
- ・ 子どもの夢や将来について、いつも親子で話し合う。
- ・ 学習計画を子どもが立てられるように、いつも関わる。
- ・ 家族で共有する時間をもち、家庭でのコミュニケーションを大切にしている。
- ・ 日常的に、家の手伝いや役割を子どもにももたせている。
- ・ 子どもが自然にふれたり、体験したりする機会を定期的に持つようにしている。



小学校につながる 毎日のチャレンジ

- ☆えんぴつ・はしが正しくもてる。
- ☆朝6：30までに自分で起きられる。
- ☆呼ばれたら「はい」と返事ができる。
- ☆使ったものをかたづけることができる。
- ☆ぞうきんを洗うことができる。
- ☆ちょうち結びができる。
- ☆自分からあいさつができる。
- ☆まわりの人と関わろうとする気持ちをもてる。



小学校1年生



小学校1年生の時期の特徴

- ・一人で家庭学習をやりきるためには、家族の手助けが必要です。
- ・成長には個人差があります。過度の心配をせず、長い目で見守りましょう。
- ・いろいろなことに興味をもち何でも知りたがり、まわりの大人の行動をまねることから、「なぜなぜ時代」「まねっこ時代」といわれます。
- ・「早寝早起き」「朝ごはん」「朝の排便」「正しい姿勢」などの基本的生活習慣と学習習慣や体力向上とが強く結びつきます。

1年生の主な学習ポイント

国語

- ・形が似た文字を正しく書いたり読んだりする（「し」と「つ」、「ぬ」と「め」など）
- ・話を読んで、内容や登場人物の気持ちができる
- ・助詞（が・を・になど）を正しく使って文を書く

家庭でできることは？

- ・毎日音読タイムをつくる
- ・間違いは怒らず、「見つけられてよかったね」などの前向きな声かけをする
- ・絵本や会話を通して言葉にふれる

算数

- ・「10になる組み合わせ」（たとえば、6と4、7と3など）が分かる
- ・くり上がり・くり下がりのある計算をする

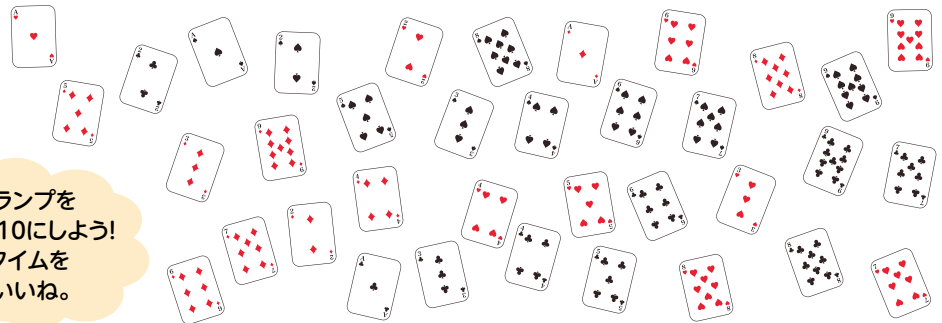
家庭でできることは？

- ・ブロックやおはじきで目に見えるようにする
- ・「どうやって考えたの？」と考え方を聞いてあげる
- ・「集める」「並べる」「数える」を親がしてみせる

家族でチャレンジ!



1から9までのトランプを並べたら、2枚とって10にしよう! 慣れてきたら、タイムを競ってみるのもいいね。



家庭学習のポイント

学習時間のめやす20分～30分
家庭学習を始める前に



保護者
チェック欄

①学習をする場所の整理整頓をさせる。

②学校からのプリント類を一緒に確かめる。

③今日の宿題を一緒に確かめる。

④えんぴつの正しい持ち方を教える。

宿題を最後までやりきる子ども

はじめは、親子で一緒に宿題をすることにより、最後までやりきることの心地よさを体験させましょう。この時期に「宿題を最後までやりきること」を習慣化させることが重要です。ひとりで宿題ができるようになったら、最後までやれているかどうか家族の目で点検してみてください。



子どもの意欲をひきだすために ～「よみきかせ」のすすめ～



子ども達は、日々の暮らしの中で、まわりの大人から大きな影響を受けながら成長していきます。特に幼い時期は、心の土台を育むとても大切な時期です。この時期には、あらゆることにおいて、大人が「目をかけて、言葉をかけて、手をかける」ことが大切です。小さなことでも「できたね」「がんばったね」と褒めることで、子ども達の心に自信とやる気が育っていきます。例えば、本をまったく開こうとしなかった子どもでも、おうちの方が楽しそうに本を読んでいる姿を見ると、不思議と近づいてきて、自分も本を手取るような姿が見られることがあります。このように、子どもは大人の背中を見て育ちます。反対に、もし親が夜遅くまでスマートフォンやゲームに夢中になっていれば、子ども達の生活にも影響が出てしまうかもしれません。

そこでおすすめしたいのが、「よみきかせ」です。親子でゆったりとした時間を共有しながら、本の世界を楽しむことで、子どもの心が豊かに育ち、言葉や表現への興味も深まっています。また、読み聞かせは、子どもにとって「大切にされている」「自分に向き合ってくれている」と実感できる、何よりの時間です。

子ども達は本来、活動の意欲にあふれています。その意欲をどう育み、どう引き出していかは、家庭での過ごし方に大きく左右されるといっても過言ではありません。ぜひ、日々の中でほんの少しの時間でも、本を手にとって、お子さんと一緒にページをめくってみてください。それが、子どもの意欲と心を育てる第一歩になります。

「よみきかせ」の
すすめ



食事・睡眠・外遊び で元気な身体に

「早寝・早起き・朝ごはん」は、子どもの健やかな成長に欠かせない基本習慣です。特に朝食は、睡眠で不足したエネルギーを補い、学校での集中力ややる気を支える重要な役割があります。成長期には栄養バランスのとれた食事が発育や免疫力の向上に不可欠で、欠食や偏食が続くと肥満や生活習慣病のリスクが高まります。家庭での食生活の管理を大切にしましょう。

睡眠は子どもの心身の成長に欠かせず、睡眠中には成長ホルモンが分泌され、骨や筋肉の発達、免疫力の向上、記憶の整理が行われます。現代ではゲームやスマートフォン、塾などで就寝が遅れやすく、続くと集中力の低下や情緒への影響が心配されます。家庭では「毎日同じ時間に起きて朝日を浴びる」「寝る前1時間はテレビやスマートフォンを控える」など、体内時計を整える習慣づくりを心がけましょう。

外遊びも心と身体の成長に大切です。家庭では外で駆け回る時間が減りがちですが、休日には町内の施設や自然の中へ出かけ、「疲れたけど楽しかった」と思える体験をさせてあげましょう。しっかり遊び、しっかり眠ることで、子どもの元気で健やかな成長を支えます。



小学校2年生



小学校2年生の時期の特徴

- ・2年生になると、1年間の学校の流れを経験し、見通しがもてるようになります。
- ・性別に関わらず、仲のよし悪しを問わずに遊びます。
- ・学校や友達の様子をすすんで話すようになります。子どもの話にしっかりと耳を傾けてください。
- ・できることは自分からしたがりです。自分のことは自分でする習慣をつけるのによい時期です。
- ・はしやえんぴつの正しい持ち方は、この時期までに身につけさせましょう。日頃から意識してアドバイスをし、できれば褒めて、根気よく声かけをしましょう。

2年生の主な学習ポイント

国語

- ・少し長い文章の内容を理解したり、登場人物の気持ちを考えたりする
- ・作文で「○○しました。○○が楽しかったです。」だけでなく、内容を膨らませて書く
- ・人の話を集中して聞き、自分の考えを伝える

家庭でできることは？

- ・音読のあとに「何があった話?」「どうしてそう思った?」と聞いてみる
- ・「だれと?」「いつ?」「どこで?」と聞いて内容を広げる
- ・「今日あったこと教えて」と毎日話す習慣をつける

算数

- ・「 $42 - 18$ 」や「 $53 - 27$ 」など、2けた - 2けた(繰り下がりが1回)の計算をする
- ・かけ算の意味を理解し「九九」を唱える

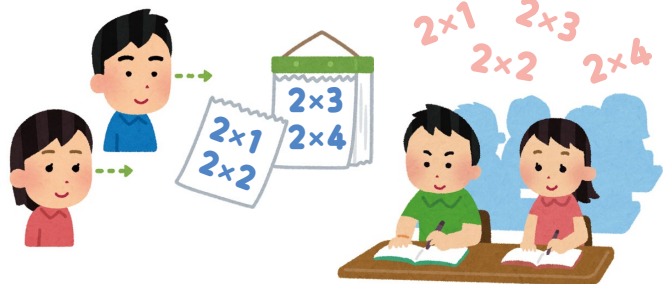
家庭でできることは？

- ・筆算を使うときは「およそいくつ?」を一緒に確認する
- ・使う場面を生活の中で見せる(例:「おせんべいが4袋あって、1袋に5枚ずつ入っているよ。全部で何枚かな?」)

家族でチャレンジ!



「かけざんカード」を家族と一緒ににつくって、家の中(トイレや居間など)に貼ろう。カードの前では声を出して練習するよ。覚えたカードははがしていこう。どのカードが最後まで残るかな。



家庭学習のポイント

学習時間のめやす30分~40分
家庭学習を始める前に



保護者
チェック欄

①学習をする場所の整理整頓をさせる。

②学校からのプリント類を一緒に確かめる。

③今日の宿題を一緒に確かめる。

④えんぴつの正しい持ち方を教える。

宿題を最後までやりきる子ども

宿題はできるだけきまった時間にさせるようにしましょう。テレビ等を消して、集中できる環境づくりも大切です。そして、最後までできているかどうかを家族の目で点検し、できていたらほめてあげてください。



しかる？

おこる？



「しかる」と 「おこる」の区別

子どもを「しかる」と「おこる」とはどう違うのでしょうか。「しかる」というのは、なぜいけないかをわからせることで、自律心を育てるためにも必要なことです。一方、「おこる」とは、親が自分の感情をコントロールできずにぶつけることです。ですから、おこられて育つと子どもは自分を否定し、親の顔をうかがって物事を判断するようになると言われています。

しかし、私達は人間です。おこることを完全になくすことはできないと思います。では、どうしたらいいしかり方ができるのでしょうか。

ひとつの方法として、まず子どものやったことを認めたくて、親の気持ちを伝え、目を見て言い聞かせるというしかり方があります。そのとき、できるだけ否定的な言葉を使わないように気をつけることです。子ども達は人間的に成長していきます。肯定的に人生を歩めるように導いていけたらと考えます。ある小児科の先生は、「しつけはしつけ糸のようにゆるく」ということをおっしゃっています。あまり片意地ははらず、楽な気持ちで接することも大切です。



DAISENモニュメント(須村)
撮影者:中曾義久

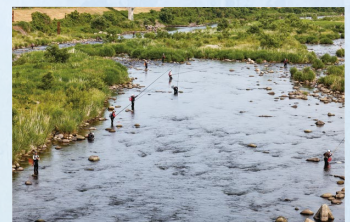


パール大山十三夜(大殿)
撮影者:土井垣伸治

特別な支援が必要な子ども達

家庭や学校で、「自分の思いがうまく伝えられない」「落ち着きがなくずっと動いていたりしゃべっていたりする」「努力しても漢字や九九が覚えられない」など、年齢にふさわしくない行動や様子が見られることがあります。子どもによって発達の違いがありますので、過度の心配はいりません。しかし、担任の先生から話があったり、まわりの子どもと極端な違いが見受けられたりする場合には、「発達障害」を疑ってみることも必要です。

発達障害は、生まれつきのものであり、育て方に原因があるわけではありません。しかし、適切な支援がされないことによって、学校がきらいになったり、友達とトラブルを繰り返したりといった二次的な問題が生じてきます。まずは、学校の先生に相談をしてみるといいと思います。必要に応じて、医療にかかることもあります。適切な支援を受けることで子ども達自身が暮らしやすくなり、意欲的に学習にも取り組めるようになったケースが多くあります。



日野川(吉長)
撮影者:安養寺亨

小学校3年生



小学校3年生の時期の特徴

- ・何でも見たい、さわりたいと好奇心が強くなり、行動範囲も広がります。
- ・自立する心がめばえ、自分でやってみようとするものが多くなりますが、まだ手助けは必要です。
- ・友達みんなと行動することを好むとともに、くちごたえをするなど反抗が少しずつみられるようになります。
- ・学校の授業では、「生活科」がなくなり、「社会科」、「理科」、そして「総合的な学習（伯耆学習）」が始まり、学習内容が広がります。

3年生の主な学習ポイント

国語

- ・本や文章を読んで、自分の言葉でまとめたり感想を書いたりする
- ・グループで意見を出し合ったり、友達の話聞いてまとめたりする
- ・ローマ字を読み書きする

家庭でできることは？

- ・家族で簡単な話し合いをしてみる(テーマ例:食べたいものなど)
- ・相手の話を聞いたら「それはどういうこと?」と質問したり、感想を伝えたりする習慣をつける
- ・ローマ字表を冷蔵庫や机に貼って、日常的に目にするようにする

算数

- ・文章(例:「どちらが大きいか」「倍にする」「差がいくつか」)から式を作る
- ・かけ算を筆算で計算する

家庭でできることは？

- ・式を「言葉で説明するとどうなる?」とたずねる
- ・「だいたいいくらくらいになりそう?」と見当をつけてから計算するよう声をかける

家族でチャレンジ!



車のナンバー全てを使って10をつくらう。答えはひとつとは限らないよ。「+、-、×、÷」どれを使ってもいいよ。
例:【9 5 4 8】の場合… $5+4+(9-8)=10$
1つの式にしなくても、「 $9-8=1$ で、それに5と4をたして10」のように声に出しながらやってみよう!!



家庭学習のポイント

学習時間のめやす40分~50分 家庭学習を始める前に



保護者
チェック欄

①学習をする場所の整理整頓をする。

②学校からのプリント類をその日のうちに親に手渡す。

③今日の宿題と明日の授業の準備を自分で確かめる。



宿題を最後までやりきる子ども

自主学習を始める時期です。「自主学習ノート」を用意して、言葉の意味調べ、計算練習、社会や理科の調べ学習など、とりくみやすい学習から始めることが大切です。身のまわりのことに興味をもつという意味では、自然観察やお手伝いなども自主学習のひとつです。その際にもノートに記録するなど、成果として目に見えるようにすると意欲につながります。

アイ 「伯耆 I 学習」が始まります！

伯耆 I 学習とは、「地域学習」と「生き方学習」の2つの柱で構成されている「総合的な学習の時間」で、伯耆町内全ての小中学校で実施しています。

たとえば、地域に自生する「ブナ」や「マツムシソウ」などを題材に、自然の豊かさを学ぶ授業があります。この学習を通じて、子ども達は地域の魅力を知り、ふるさとへの愛着を育んでいきます。

学習の過程では、地域の方にゲストティーチャーとして関わっていただき、専門的な話や体験を通して学びをより深めています。また、学習のまとめの段階では、子ども達が自らの学びの成果を地域の方に向けて発信したり、地域に出かけて実際に活動したりする「地域貢献活動」に取り組んでいます。こうした活動を通じて、子ども達は達成感や自分が役に立っているという実感（自己有用感）を得るとともに、地域に元気や活力を届けることを目指しています。

このような学びは、学校だけで完結するものではありません。地域の皆さまの協力があってこそ、より深く充実したものになります。近年、「地域とともにある学校づくり」という言葉をよく耳にしますが、子ども達を社会全体で育てていくためには、地域の大人たちが子育てに関わるのがとても大切です。そのために、伯耆町では「学校運営協議会」を設置し、学校と地域が連携して子ども達の成長を支えています。

家庭・地域の皆さんにこの取り組みを知っていただき、一人でも多くの保護者・地域の方に「できること」から参加していただくことが、子ども達の学びをさらに深めることにつながります。



伯耆富士大山(小林)
撮影者:石原順二

子どもを よく見る



よく聴く



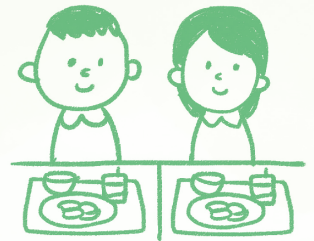
毎日顔を合わせているし、忙しくても子どもの「ねえ聞いて」にはできる限り応えているし……。親としては、子どもの様子はだいたい分かっていると思って暮らしていますよね。そうして暮らしているはずなのに、突然子どもが「学校に行きたくない」と言ったり、学校から「実はこんなことがありまして」と電話がかかってきたり…。びっくりすることが起こることもあります。

何かが起こったときも、平穏な日々の暮らしのなかでも、親が子どもをよく見て、子どもの話をよく聴くことは、子どもが自分自身を信じ、なかま（家族、友達、社会）を信じて生きていく力を育みます。

お子さんは、「どんなことが好きですか?」「どんなことが得意ですか?」「仲の良い人は?」「好きな物は?」…はたまた、お子さんの表情は?声の調子は?体の感じは…?あらためてよく見てみましょう。お子さんの話を聴くときは、お子さんが「どう感じ」「どう考え」「どうしようとした(どうしようとしている)」のかに関心を寄せて聴いてみましょう。子どもの関心に関心を寄せて、よく見て・よく聴くことは、親が子どもを理解すること、子どもが自分自身を理解することを助け、そして親子のいい関係をつくりま

す。
よかったら「よく見る・よく聴く」に挑戦してみるのはいかがでしょうか?

小学校4年生



小学校4年生の時期の特徴

- ・小学校3年生と同様に、「知りたがり屋」「やりたがり屋」の時期であり、特定の趣味やスポーツに熱中するようになります。
- ・自転車で遠くの友達の家に行ったり、時には電車やバスを使って大型スーパーまで行ったりすることも見られます。
- ・良いことであり、悪いことであれ、友達みんなと集団で行動することが多くなります。時には、いたずらや危険な行為で心配をかけることも出てきます。
- ・親離れがすすみ、小言や意見を言っても、うるさがることがふえてきます。

4年生の主な学習ポイント

国語

- ・「まとめ」「意見文」「感想文」などで、自分の考えを整理して書く
- ・長い文や複雑な文で、主語と述語、修飾語の関係を理解する
- ・友だちの意見を聞いて、自分の考えを深めたり比べたりする

家庭でできることは？

- ・まずは口で話す練習からする（「どう思った？」を聞く）
- ・絵を見ながら文を作る
- ・家族で「〇〇についてどう思う？」と意見を出し合う時間をつくる（例：「動物園と水族館どっちが楽しい？」など）

算数

- ・2桁でわるわり算の筆算をする
- ・折れ線グラフや表を読み取る
- ・平行・垂直、台形・平行四辺形・立方体などの形を理解する

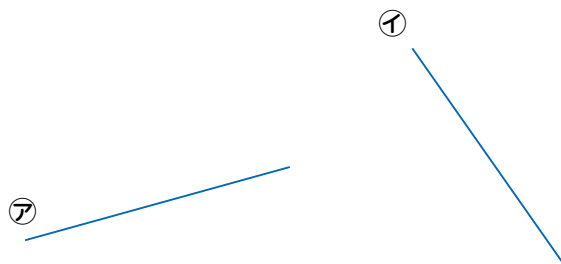
家庭でできることは？

- ・商の予測を、身近な例（お金の計算や買い物など）でする（例：「100円のお菓子を12人で分けると、1人分はだいたい何円？」）
- ・天気や気温、歩数などをグラフにかく
- ・身近なものから図形を探す（例：「この窓の枠は垂直だね」「本棚は立方体みたい」など）

家族でチャレンジ!



三角定規2つを使って、右の2つの線⑦①に垂直な線を引いてみよう。



家庭学習のポイント

学習時間のめやす50分～60分
家庭学習を始める前に



保護者
チェック欄

①学習をする場所の整理整頓をする。

②学校からのプリント類をその日のうちに親に手渡す。

③今日の宿題と明日の授業の準備を自分で確かめる。



宿題を最後までやりきる子ども

学習塾や習い事、スポーツ少年団活動がある子ども達は、宿題をやりとげるだけでも大変だと思います。その上に自主学習をするためには、時間の使い方が大切です。特に、テレビやゲームの時間を決めてさせましょう。干渉を好まない時期ではありますが、親に見守られている安心感が必要です。どのような自主学習をしているか、関心をもって親子の会話をしましょう。

食事の時間に家族の会話を

「食事の時間」は家族が自然と集まりやすい、貴重なコミュニケーションの場です。忙しい毎日の中では、「ちゃんと宿題やった?」「早くしなさい!」と、つい一方的な言葉が多くなりがちです。そんな時こそ、テレビやスマートフォンをいったんお休みして、子どもの顔を見ながら話をしてみませんか。学校での出来事や友達とのやり取り、楽しかったことや困っていることなど、何気ない話題の中に子どもの気持ちや考えが表れます。「ちゃんと話を聞いてもらえている」「自分のことを気にかけてくれている」と感じることで、子どもは「自分は愛されている」「大切にされている」と実感し、安心感や自己肯定感が育っていきます。

また、この頃の子供達は、善悪の判断や物事の見方をまわりの人の様子から学び取ります。家族との会話の中から、「あの時そうすればよかったんだ」といった気づきもてるように話をするとストンと心におちることが多いのではないのでしょうか。

食事の時間は、単にお腹を満たすだけでなく、心を満たす時間にもなります。毎日は難しくても、「今日はちょっとゆっくり話そうか」と意識する日をつくることで、親子の信頼関係や家族の絆をより深めていけるのではないのでしょうか。



やくもと雪の大山(吉長)
撮影者:中曾義久



ゲームの長時間利用に 困っていませんか?



今日では、ゲームは子ども達にとって身近な娯楽となり、適度な利用はストレス発散や子ども同士のコミュニケーションとして有益です。しかし、長時間のゲーム利用は、子どもの発達や生活習慣に悪影響を及ぼす可能性があります。子ども達がゲームにのめりこむのはゲームが楽しいからですし、一種の現実逃避の場ともなっています。

ゲームの長時間利用の対策として、使用ルールを作ることが重要だと言われていますが、それ以上に重要なことは、現実社会で子ども達の自己有用感を高めることです。自己有用感とは、「自分は役に立っている」「自分には価値がある」と感じることを指します。この感覚が低いと、現実世界での達成感を得ることが難しくなり、ゲームにのめり込む要因の一つになります。

自己有用感を高めるには、勉強やスポーツ、趣味など「ゲーム以外」で達成感を得る場を増やすことが大事です。また家庭では、子どもに積極的に手伝い等の役割を担わせ、手伝ってくれたことに「ありがとう」と伝えることで、「自分が周囲にとって大切な存在」と実感できる機会をつくることも大切です。自己有用感を高めることで、現実世界での充実感が増し、ゲーム依存を自然と減らすことにつながります。

伯耆町の学校教育

「まちぐるみで取り組む教育の推進

～地域とともにある学校づくりを基盤とした保小中一貫教育の推進～

本町の小中学校の教育のキーワードは、「保小中一貫教育」と「コミュニティ・スクール」です。この2つについて保護者のみなさまにもご理解をいただきたいと思います。

伯耆町 地域学校協働本部「ほうきてごネット・ゆめネット」

伯耆町教育ネットワーク会議

伯耆町教育委員会事務局・ほうきてごネット代表・各CS代表・各保育所代表・CSディレクター

岸本中学校区
ネットワーク会議



地域学校協働本部
地域コーディネーター
ボランティア

溝口中学校区
ネットワーク会議



伯耆町型保小中一貫教育

- ①小中一貫教育カリキュラム
- ②スタートカリキュラム
- ③アプローチカリキュラム

岸本中学校
岸本小学校
八郷小学校
こしき保育所
ふたば保育所
あさひ保育所



目標共有・連携

家庭教育支援チーム
教育支援センター
子育て支援センター

公民館
図書館
文化センター
写真美術館
総合スポーツ公園
給食センター

目標共有・連携

伯耆町型保小中一貫教育

- ①小中一貫教育カリキュラム
- ②スタートカリキュラム
- ③アプローチカリキュラム

溝口中学校
二部小学校
溝口小学校
溝口保育所



岸本中学校区保小中一貫教育部会

関係各代会

溝口中学校区保小中一貫教育部会

伯耆町教育振興会

伯耆町教育委員会事務局・全学校教職員・(福祉課)・全保育所職員

「保小中一貫教育」

本町の2つの中学校区（岸本中学校区・溝口中学校区）では、保育所、小学校、中学校の保育士・教職員が話し合いをもち、義務教育修了までにどのような子どもを育てるのか（これを「目指す人間像」と呼びます）を共有して、日々の保育・教育に取り組もうとしています。特に、小学校と中学校では、どの時期に、どのような内容を、どのような方法で教えるのか（これを「一貫カリキュラム」と呼びます）について、お互いに理解しあった上で、学力がより確実に定着するための工夫をして授業を行っています。また、総合的な学習の時間をつかって、地域のことについて学ぶ「地域学習」と自分の生き方について学ぶ「生き方学習」（これらをあわせて「伯耆I（アイ）学習」と呼びます）を、地域の特色を生かしながらどの学校も共通して実施しています。広い意味での学力である人間力を育てようとするねらいがあります。このように、保育所から義務教育9年間を通して、一貫性をもった教育を行うことから、保小中一貫教育といわれています。

「コミュニティ・スクール（CS）」

平成30年度から、本町のすべての小中学校がコミュニティ・スクールに指定されました。これにより、校長と共に保護者や地域の方々、専門的知識をもつ方々の視点を取り入れ、地域全体で子ども達を育てる環境を整備し、家庭・学校・地域が連携して教育に取り組むことができます。コミュニティ・スクールでは、複数のメンバーで構成される学校運営協議会が設置され、校長の運営方針について協議し、承認を行います。また、教職員人事について意見を述べることもできるしくみになっています。本町では、学校が抱える課題について話し合ったり、学校に対して地域や保護者の方々がどのように協力できるのかなどを話し合ったりすることが行われています。コミュニティ・スクールは「地域とともにある学校づくり」の中心となる取組です。

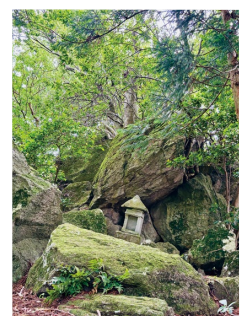
他にも、本町には次のような組織があります。

「伯耆町教育ネットワーク会議」

各コミュニティ・スクール（CS）の間の横のつながりを形づくるために、中学校区ごとに3校ずつで、中学校区CSネットワーク会議を開いています。各学校の学校運営協議会の代表者3名ずつが集まり、中学校区の「目指す人間像」を共有し、その実現に向けて話し合いを行います。さらには、2つの中学校区を超えて取組について情報交換を行い、伯耆町全体としての「目指す人間像」を共有していくために、各中学校区のネットワーク会議のメンバーで、伯耆町CSネットワーク会議を組織しています。コミュニティ・スクールの取組の中に、保小中一貫教育の視点を取り入れて、町ぐるみで子ども達の育ちを支えていくことをねらっています。

「地域学校協働本部」

地域住民、学生、保護者、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支え、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校がパートナーとして連携・協働して様々な活動を行う組織を地域学校協働本部とよんでいます。本町では、毎年述べ1000名以上の方がそれぞれの得意分野でボランティアとして授業で子ども達に関わったり、登下校で安全見守りをしてくださったりしています。このような活動を「てごネット」と呼んでいます。また、中学生が週末に公民館や、地域の行事等の運営補助のボランティアとして参加する活動を「ゆめネット」と呼び、地域学校協働本部の両輪として「人づくり、町づくり、未来づくり」を進めています。現在、教育委員会事務局に統括コーディネーターを1名、各学校にも1名の地域コーディネーターを配置し、学校と地域の間をとりもって調整をする役割を担っています。



はまなんご(大内)
撮影者：松本弥寿子

「家庭教育支援チーム」

保育所から中学校までの幅広い保護者のみなさまに、家庭教育の役割について再確認していただき、子ども達の育ちに積極的にかかわっていただくために、家庭教育支援チームが組織されています。子どもに関わる部局と教育委員会事務局が連携しながら、家庭における子育てについてさまざまな視点からアドバイスを行うこととしています。構成メンバーも、家庭教育推進員、保健師、子育て支援センター・教育支援センター職員、スクール・ソーシャル・ワーカー、スクール・カウンセラーと専門的な職能をもっています。



番原公園
撮影者：森藤明子



発行 令和8年1月

編集・企画 伯耆町教育委員会

所在地：鳥取県西伯郡伯耆町溝口647番地
TEL 0859-62-0927

参考 平成22年版

『家庭教育手帳 小学生（低学年～中学年）編』

発行者：文部科学省生涯学習政策局

男女共同参画学習課家庭教育支援室

令和6年版

『家族で応援！小学生スタートブック

子どもの自立スイッチ，ON！』

発行者：鳥取県教育委員会

印刷・製本 有限会社 米子プリント社